2023年（令和5年）
第45号
（3月1日）

平安だより
HEIAN letter

発　行　所：立正佼成会　京都教会
発行責任者：渉外部長　澤村悦玄
編集委員長：渉外広報　植田恭司
〒605-0041　京都市東山区三条東町 230
TEL (075)762-2211　FAX (075)762-2266

今月のことば　～健康と元気は「心」から～　洛叡支部支部長　堀口典成

「今月のことば」のお役を頂きました洛叡支部の堀口です。どうぞよろしくお願い致します。

私は千葉県船橋市で生まれ育ちました。佼成会とのご縁は母方の祖母が入会し、母が継承し私に繋いで頂きました。私は幼少期より小児喘息でした。毎年秋から冬にかけて、寒くなると風邪をひき、その後決まって喘息の発作を起こしていました。発作を起こすと常に息が苦しく、歩くときもゆっくり歩いては休み、ゆっくり歩いては休み、でないと歩けない状態になります。また夜は横になると息が苦しいので、布団に座ったままウトウトするのが精一杯でした。そんな小学生だった私を発作が起きると、母はいつも夜も眠らず私の背中をさすりながら、夜通し看病してくれました。

今でもはっきりとその言葉を覚えていますが、熱心に佼成会の修行をしてきた祖母が、ある時小学生の私に言いました。「弱い身体に生まれてきてすみません、とお母さんにお詫びするんだよ」と。私は納得できませんでした。「好きで喘息になっているのではない。苦しいのは自分の方だ。そんな自分が何で謝らなければならないのか」と思っていました。母にあれだけ夜通し看病してもらい、たくさん心配をかけたのに、親不孝な私でした。今から思えば祖母は「全ては自分」という縁起観を教えてくれたんだと思います。そしてその頃から祖母と母からお導きをして頂いたんだと思います。

相変わらず毎年発作を起こしていましたが、そうした周りの方々のお導きにより、高校３年生の時から船橋教会の学生部活動、青年部活動に参加するようになりました。親不孝で頑固な私もお役を頂き、練成会やお手取りを一生懸命させて頂く中で、教えの有り難さを学ばせて頂きました。その頃はまだ直接母にお詫びできませんでしたが、「自分が変われば周りが変わる」「全ては自分」という縁起観も理解できるようになりました。そんな中、いつからかははっきりしませんが、20 代の後半くらいから、喘息の発作がパッタリと起きなくなりました。薬も飲む必要がなくなりました。それ以来、今に至っています。

私は今まで何となく治ったなと大変な勘違いをしておりました。会長先生は今月のご法話で、「体と心は相即不離の関係で、精神作用は体に影響しますから、『心の筋肉』にも日々、感動や感激などの刺激を与え、つねに活性化させて、身心両面から衰えにくく病気になりにくい体質をつくることが、いつも元気でいるためには大切なのです。」と教えて下さっています。祖母と母、そして周り方々のおかげで尊いご法に触れ、有り難いサンガに入ることで自動的に「心の筋肉」を活性化して頂いたからこそ元気にならせて頂いたんだと、会長先生の今月のご法話を通して初めて気付かせて頂きました。「今月のことば」のお役を通して改めてご法とサンガに感謝の念を抱くことができました。ありがとうございます。

今年より新たなお役を頂きました。健康で元気に精進するために、会長先生が今月のご法話にお示し下さいました、「いつも心の奥深くに喜びをもつ」「心中絶えず感謝の念を含む」「常に陰徳を志す」を実践していきたいと思います。そして「まずは身近な人に心の健康法ともいえる妙法の有り難さ」をお伝えしていきます。

合掌

あなたのお仕事を教えて下さい　～中央支部　中嶋正人さん～

Ｑ：仕事先はどちらですか。
Ａ：大新東株式会社
Ｑ：どのような仕事内容ですか。
Ａ：貸し切りバス、路線バスの他、企業や学校所有のバス、他に企業や役所の役員車を委託され運行しています。全国に支店があり、ある宗教団体の佼成会で言う団参に行かれるバスや有名なバレーボールチームの選手専用バスも運行しています。
Ｑ：仕事中に心掛けていることがあれば教えて下さい。
Ａ：以前はバスに乗務していましたが、今はある会社の役員の方をお乗せしています。どちらも人の命を預かる仕事なので気を使います。又、いろんな相手先の会社に行きますので言葉づかいや礼儀作法にも気をつけなければならず、役員の都合に合わせなければならないので休日出勤や深夜残業などがありますので体力的にも精神的にも結構しんどい仕事です。先輩からは気持ちでハンドルを握れ…とよく言われます。無事故は勿論、乗られている方が気持ち良く安心して車内で過ごせるよう、その為には急のつく事は絶対にせず余裕を持って運転する事に努めています。もう少しで定年ですのでそれまで頑張っていきたいと思います。